

# 陸上運動部部便り

2008年6月号

関東インカレ・国公立戦

## 目次

1	関東インカレ	1
1.1	監督の言葉	1
1.2	主将の言葉	2
1.3	女子主将の言葉	2
1.4	試合経過	2
1.5	試合結果	8
2	国公立戦	12
2.1	監督の言葉	12
2.2	主将の言葉	12
2.3	女子主将の言葉	13
2.4	試合経過	13
2.5	試合結果	23
3	2008年度部内5傑 2008.5.31現在	27
4	自己記録更新者一覧 2007.4.6~5.31	29
5	主務より	29
5.1	応援OB・OG紹介	29
5.2	第4回T・Kマスターズ交流会および懇親会開催のお知らせ	30
5.3	行事予定	30
5.4	連絡先(慶甲等)	30

## 1 関東インカレ

### 1.1 監督の言葉

監督 寺田秋夫

第87回関東学生対校陸上競技大会は5月17、18、24、25の4日間、国立競技場で行われました。本学はフィールドの安定感と短長系の復調で、ここ数年ではピークのチームとなり、男子学部はA標準突破11名を含む23名を、院生は

マイルリレーとハーフマラソンに2名、女子は4x100mリレーにエントリーとなりました。院生は対校というよりも個人選手権のような気持ちで、また、女子は少ない人数の中でも上を目指す気持ちを繋いでいくための出場の意味合いもありましたが、男子学部チームは、ここ数年対校戦の体をなしていなかった中で、何としても20点以上は取り、今年は昇格できない場合でも、部全体が「もう一度1部校へ」という意識をもつきっかけにしたいところでした。

ところが結果は槍投げの谷(3年)と幅跳びの主将尾崎(4年)の2つの8位による2点止まりという史上最悪の結果となってしまい、日頃応援くださるOB・OGの皆様には、お詫びの言葉もございません。

個々には、自己記録を更新したり、再起も危ぶまれたような故障を克服してそれなりの結果を残したりと、全体としては良くやったと思いますし、主将尾崎のリーダーシップで土壇場力が出せるチームにもなってきたのですが、それでも全く点数に絡めなかったというのが実情です。全日本クラスの選手が多数院生で出てくるなど、2部校を取り巻く環境も大きく変わりましたが、試合ですから、条件はどこのチームにも公平なわけですし、乗り越えていかないといいけません。

因みに1部昇格はフィールドを席捲した国際武道大学と、トラックで穴のなかった明治大学、2部への降格は0点に終わった平成国際大と、弾切れの感のある筑波大学院で、来年は中長が強い大学に歩がありそうです。

シーズンはまだ始まったばかりですし、今回の結果を一言で「惨敗」とか、「インカレは別格の試合になった」と片付けず、得られた経験反省を活かして、一試合一試合チームのレベルが上がっていくようにしていきたいと思います。今

シーズンは次週が国公立戦(上柚木)さらに1週開けて四大戦(敷島)と続き、過密スケジュールで、七大戦への心身のピークの持って行き方も難しくはありますが、6月中盤から落ち着いて練習できるメリットもありますので、来週からの対校戦で、中堅層の選手を中心に自信を戻して、個人もチームも勝つことの楽しさを思い出させて、良い雰囲気に戻して夏シーズンは過ごしたいと思います。

## 1.2 主将の言葉

主将 尾崎 翔

全ての試合には目標があります。今回、我々が部として明確な目標として挙げ続けていたのは「50点とって1部昇格」というものでした。しかし、結果は2点。目標の達成度は4%です。この結果を見れば、明らかに惨敗といえます。そして、この惨敗は惨敗としてチームの全員がしっかりと受け止め、なぜ惨敗したのかを考えなければならないでしょう。そして、次につなげなければなりません。目標を達成できなかっただけでなく、次にもつなげられないというのであればそのチームは強くなれるはずがありません。

少なくともこのチームは、応援団が最高にまとまって選手とともに戦い、選手はその後押しを受けて自分の最高のパフォーマンスをするという最低限のことはできるようになってきたと感じています。次にすべきなのは、目標になぜ届かなかったのか、そこをしっかりと考えて対策を実行レベルまで落として実行することです。一人一人がこのことを、競技者である限り実行し続けることが求められていると思います。そして、それができればこのチームは必ず強くなると確信しています。

数年間、関東インカレで勝つという味を忘れたチームが再び常勝軍団になるためには、やはり長い年月が必要なのかもしれません。しかし、それは一人一人の意識しだいで必ず達成されることだと思っています。「一人一人の能力の差はせいぜい2~3倍だが、意識の差は10倍、100倍にもなりうる。」という言葉が先日聞きました。この言葉を胸に、今能力で劣っていようと最高成長を一步一步成し遂げていきたいと思ひます

ので、今後とも暖かいご応援をよろしくお願いいたします。

## 1.3 女子主将の言葉

女子主将 日下桃子

女子は個人での標準突破は叶わず、4×100m R のみの出場となりました。昨年のように好記録を出し、これからの対校戦に向けて弾みをつけたいと思ひましたが、記録は53"47で、数年来の目標である52秒台は叶わず残念な結果でした。リレーについては今後の対校戦で奮起したいと思ひます。

4日間の関東インカレを通して、この舞台で競技したいという気持ちが女子部員たちの心の中で強くなったと感じました。関東インカレの女子の標準記録は、七大戦の各種目の優勝記録に匹敵するものですので、七大戦で勝つことと標準を切ることは目標として重なってきます。「自己記録を更新し、一つでも高い順位をとる」という強い意志のもと、それぞれが今後の対校戦の中で進化をとげられたらよいと思ひしております。女子は国公立戦が対校戦のスタートとなりますので、どうぞこれからも温かいご声援をよろしくお願いいたします。

## 1.4 試合経過

トラック 1日目 (5/17)

### 10:00 2部男子 400m 予選

5組2レーンに舩島(1年)、6組3レーンに兵頭(2年)の出場。2人がベストタイムを出せば、準決勝に十分進める。が、舩島は受験期のブランクがあり、兵頭は体調不良や大腿部の痛みで練習が積めていなかった。両選手とも体力面に不安が残る中のレースである。

5組2レーンの舩島(1年)。前半100mでなかなかスピードに乗り切れず、3コーナーで他の選手にかなり差をつけられ最後尾に交代する。ラスト100mもやはり、体力不足が影響してなかなか伸びない。52"00の7位で

ゴール。6組3レーンに兵頭(2年)。バックストレートで既にインコーナーの他選手に並ばれる。兵頭は後半型の選手であるため、ラストパートに期待できる。が、普段なら追い込みが始まる200mを過ぎてもなかなか前方に追いつくことができない。ラスト100mも上体がぶれる苦しい走り。52"01の7位でゴール。

#### 11:20 2部男子1500m予選

最終3組目に石原(M1)の出場。翌週のハーフマラソンにも出場ということで長い距離の練習が中心であったが、好調が伝えられ、直前のスピード練でも強さを見せていたため好結果が期待された。

スタートから積極的に飛び出し、先頭でレースを展開。1周目を63"、2周目を2'07"で通過と安定したペースを刻み、石原が集団を引っ張っていく。2周を過ぎたあたりから徐々に集団のペースが上がり、石原は集団の中程に下がるが、ペースを落とすことなく1000mを2'40"で通過する。ラスト1周となっても集団のペースが一気に上がることはなく、徐々にペースが上がっていく展開の中、石原は中程の位置をキープ。しかし、ラスト200mとなったところで一気にスパート勝負となり、ここで前方の集団から離れてしまう。それでもここでしっかりとスピードを切り替え、一度は離された前の選手との差をホームストレートで逆に詰めるなど粘りを見せた。結局決勝進出となる3着には入れなかったものの、自己ベストとなる3'57"52で9着であった。

結果的には決勝進出を逃したが、序盤にレースを引っ張って自己ベストを更新するなど状態の良さを感じられた。翌週に行われるハーフマラソンにも期待を持てる結果となった。

#### 12:35 2部男子110mH予選

予選2組8レーンに2年酒谷が出場。酒谷は今年が関カレ初出場である。関カレという場の空気に吞まれてしまったのか、スタートのプレッシャーに負けて、フライングをしてしまう。その後仕切り直して再びスタートが行われたが、スタートに出遅れ

てしまう。本人曰く、失格を恐れて慎重になってしまったのではなく、怪我が原因によるスタートダッシュの練習不足で遅れた、とのことである。しかし、酒谷は怪我明けとはいえ、調子自体は悪くなかった。身体は非常に軽く、中盤では持ち直し、スピードを上げ一人抜かした。結局15"83の6着でフィニッシュ。この時風は+0.3mであった。6着だったものの、酒谷はこの大舞台で自己ベストを約0.1更新した。来年は必ずや決勝に絡む走りを見せてくれるだろう。

#### 18:00 2部男子4×100mR予選

3組2レーンに、藤本(5年)-福田(4年)-都井(3年)-石田(3年)の走順で出場。尾崎が抜けた穴が気かりだが、藤本が100m予選を欠場して本種目に臨む他、福田・都井も春先の競技会で好調をアピールしており、俄然期待がかかる。作新学院大と千葉商科大のいずれかを崩し準決勝に駒を進めたいところ。

号砲が鳴る。1走・藤本がまず号砲に好反応を見せる。一つ外のレーンに行く千商大との差はなかなか縮まらないものの、後半からは目を見張る伸びで、上位争いに食らいつく。2走・福田は詰まり気味でバトンを受け取り、前半は強豪集団にあってじりじりと離されてしまう苦しい走り。しかしやはり後半の粘りで貫禄を見せ、都井にバトンをつなぐ。都井は加速がよく、コーナートップで外側レーンの創価大・聖学院大を抜き去る最高の走りを見せる。3位ほどかというところでバトンを繋いだ石田も、ケガの影響を感じさせない走りで前に行く2校を猛追するが、なかなか差が縮まらない。ここで、残り50mを残し太ももに違和感を感じたのか失速してしまう。結局足を引きずりながら43"22の4着でフィニッシュ。決勝進出はならなかった。

#### 18:45 女子4×100mR予選

3組4レーンに清水(3年)-楠木(3年)-日下(3年)-大久保(3年)の走順で出場。女子4継の記録は永らく53"~54"で頭打ちになっており、大一番でのブレイクスルーが期待

される。男子チームに比べ人数の制約もありほぼメンバーが固定してきているが、それを逆手に取って早期からバトンワークの練習に努めてきた。同組には六大戦、一橋戦でそれぞれ対戦する立大、津田塾大があり、是が非でも勝って練習の成果を示したいところ。

まず号砲とともに清水が勢い良く飛び出す。コーナートップからの伸びも良く、他校との差もあまり変わらないままバトンゾーンにさしかかる。楠木が若干早めに飛び出してしまいが何とかバトンをつなく。久々の直線区間での起用に応えようと力走する楠木だが、強豪選手の集まる直線区間においてじりじりと遅れをとり、集団から30m程遅れて日下にバトンをつなく。日下もやや控えめに序盤を走るが、コーナートップ以後落ちてきた津田塾大との差をだんだんと詰め始め、リレーゾーンにさしかかる頃には20m程まで詰め寄って次走者に託す。バトンを受け取った大久保は猛然とスパート。一気に抜くかと思われたが、もう一伸び足りず53'47の7着でフィニッシュ。結果こそ残念だったものの、各人に勝負強さが備わり、楽しみな陣容になってきた。国公立戦以降の活躍に期待したい。

## トラック2日目(5/18)

### 13:50 2部男子1000mW 決勝

菅野(5年)、北沢(4年)、和田(4年)の出場。今年も3人をフルエントリーし、去年果たせなかった入賞と得点が期待される。日照りが強く、気温の高い中でのレースとなった。

1部校・2部校ともに同時スタートのため、レースは先頭集団が1000mを3'57"で通過するハイペースで展開されたが、東大勢は冷静に自分のペースで歩き、序盤は和田と菅野が後方4番手、北沢は最後方からレースを進める。その後は3選手とも作戦通り、ペースダウンした他大の選手達を抜き、順位を少しずつ上げていく。しかし、和田は2800m通過後の1周の間に掲示板に3枚の警告を貼り出され、3200m付近で失格になってし

まう。一方、菅野・北沢の両選手は一定のペースで歩き続け6000mを菅野が28'40"の13位、北沢が28'50"の15位で通過。6800m付近で、ややペースダウンした菅野を北沢が追い越すが、菅野も粘りを見せ7700mで再び北沢の前に出る。北沢は苦手な暑さも影響して伸びを欠き、菅野との差は徐々に広がっていくが、共にその後もあまりペースを落とさずに歩き切り、菅野は48'25"94の10位、北沢は48'39"79の11位でゴール。ハイペースの展開の中でも落ち着いて自分の歩きができ、競歩パートの強さを見せることはできたが、期待されていた入賞にはあと一歩及ばなかった。和田は最後の関カレで失格という残念な結果に終わったが、大学から陸上を始めた身でここまで登り詰めた姿に多くの人が励まされた。菅野は力を出し切って30秒ほど自己ベストを更新し、最後の関カレで花咲かせることができた。北沢は今年になってから急激に自己記録を伸ばしており、来年以降も強い競歩パートを引っ張る身として頑張りたい。

### 15:05 2部男子4×400mR 予選

学部チームと院チームの出場。

まず、院チームが1組7レーンに月崎(M1)-北岡(M1)-高梨(D4)-小野(D2)の走順で出場。なかなか練習に時間を割けない院チームだが、その経験と勝負強さを武器に決勝進出を掴みたい。

号砲が鳴る。1走の月崎はゆったりとした入りで、やや後方から前の様子を窺う構え。200m過ぎからの集団のスパートに対応できず後半遅れをとるが、それでも意地で粘りきりスピードを落とさないまま北岡にバトンを繋ぐ。北岡は思い切りの良い入り。バックストレートでは完璧な伸びで一気に先行集団に詰め寄る。競合の集う2走集団に於いて引けを取らない走りで集団につき、高梨にバトンが渡った。高梨も前半から積極的に飛ばすが、なかなか差を詰める事ができない。200過ぎからはじりじりと差を広げられ、やや苦しい走りでアンカーに全てを託す。小野も冷静に序盤を展開するが、バック

ストレートでスパート。300付近から失速気味になるのを最後まで粘るも、順位をあげることはできず結局3'36"51の7着でフィニッシュ。決勝進出はならなかった。

続いて学部チームが3組3レーンに、深澤(4年)-梶岡(4年)-舩島(1年)-兵頭(2年)の走順で出場。近年稀に見る好オーダーで、PBを単純計算すれば3'20"など軽く超える。舩島のブランクと兵頭の不調が気かりだが、関カレ経験の豊富な4年生2人がうまく引っ張れば、上位に食い込む事も十分可能である。

号砲が鳴る。まず深澤が落ち着いた入りを見せ、バックストレートで滑らかに加速。300m付近で一瞬ペースが落ちるが、ラスト50mで貫禄の粘りを見せ、ラップで3着ほどかという大健闘で梶岡にバトンをつなぐ。梶岡も最初から積極的に飛ばす攻めの走りを見せるが、バックストレート付近で伸びず、上位争いから置いていかれる苦しい展開。それでも必死の形相で粘りきり、以後差を保ったまま舩島につなぐ。ゴボウ抜きを期待された舩島であったが、受験に伴うブランクと前日行われた400mの疲れからか差をうまく埋められず、200m以降は明らかに失速。上位争いからやや遅れる形で兵頭にバトンが渡った。普段後半のスパートが身上の兵頭であるが、この日は積極的に前半を飛ばす。バックストレートでの伸び著しく、300m以降もその惰性を活かした走りを見せるが、前を行く専修大の背中を最後まで抜く事ができず、3'26"87の6着でフィニッシュ。

4人の潜在力を勘案すれば極めて惜しいレースであり、また大舞台での経験不足も露呈してしまった。4大戦以降での修正が期待される。

### トラック3日目(5/24)

#### 11:45 2部男子400mH予選

1組1レーンに深澤(4年)の出場。本番前の一週間は毎日のようにハードルを跳び、あまり得意でないハードリングを重点的に練

習していた。持ちタイムはエントリーしていた32人中最下位であったが、場合によっては決勝に残れる可能性もあった。1レーンという不利な位置であり、また2レーンの選手が棄権したため前の選手との差を測りにくいということもあったのだろうか、スタート直後から出遅れ、他の選手に1台目で差をつけられてしまった。ハードリングも切れがなく、練習時に比べて動きが固い様に見えた。インターバルで追いつこうとするも追いつけず、さらに7台目で脚が合わずに詰まってしまって大きくペースを崩してしまった。10台目を越えて追い上げるも間に合わず、55"54の7着でフィニッシュ。

記録は自己ベストであったが、関東インカレでの上位選手との差を見せつけられた感じであった。例年に比べて400mHの記録のレベルが上がり、52秒台でなくては決勝に残れないといったハイレベルな争いではあったが、そこに割って入るくらいの実力が今後は必要とされるだろう。

#### 12:35 2部男子800m予選

予選3組に渡邊(2年)の出場。B標準を突破した六大戦では、格上の選手等を相手に勝負に絡んでいく強さを見せており、持ちタイムでは組5番手ながら、準決勝への進出も十分期待された。

7レーンからスタートした渡邊は、無理に集団の中に入ろうとはせず、バックストレートで集団の外側を確保する。スローペースからのスパート勝負には好位置といえる集団の前方外側をキープしたいところだったが、なかなかうまくいかない。小競り合いを繰り返し不必要に体力を消耗してしまう。1周目を58秒後半で通過。しかし、2周目に入り少しずつ集団ペースが上がっていくなか、ここからではもたないと感じたのが、渡邊は後ろに下がってしまう。これが大失敗であった。500mを過ぎたあたりから、何度か仕掛けようとする素振りを見せるものの、上手く切替えが効かないまま集団の後ろに追いやられた渡邊は苦しい走り

となり、1'59"64の7着でゴール。

関東インカレ特有の雰囲気呑まれたのか、いつもの渡邊らしからぬ弱気な走りをしてしまった。今回のレースはレースとしての体をなしておらず、「関東インカレに参加した」とはまだまだ言いがたいものであった。不運なこと有力選手の多い組ではあったが、本学のエースとして見せ場の一つでも作って欲しかった。しかし、まだまだ4月に大幅な自己新を出したばかりで勢いはある。今後の対校戦での巻き返しを大いに期待したい。

#### 14:05 2部男子200m 予選

前日同様、午前中は強い日差しが照りつけていたが、午後になってから一気に日が陰りずいぶん動きやすくなった。ときより吹く向かい風が気になるものの、悪くないコンディションである。5組7レーンに拙島(1年)の出場。スタートの反応はまずまずといったところ。しかし、ここからさらにスピードを上げトップスピードに乗っていきたい80mを過ぎた辺りで、上体が少し反ってしまった。そこから徐々に離されていき、ホームストレートに入ってからピッチ、ストライド共に先頭の選手との差は歴然であった。その後、最後まで粘りを見せるものの、結局23"63の6着でフィニッシュ。この時の風は-1.4mであった。

200mも先週の400mと同様に自己記録を大きく下回るという残念な結果に終わってしまったが、1年のうちに関東ICに個人で出場できたことは、出場した本人はもとより、部にとっても今後の大きな財産となるだろう。実力は折り紙付きのものがあ、ポテンシャルも高い選手であるので、1日も早く体を戻して、今回の経験を生かし、兵頭(2年)とともに400系パートを引っ張ってってもらいたいものだ。今後の活躍に大いに期待したい。

#### トラック4日目(5/25)

##### 9:00 2部男子ハーフマラソン決勝

依田(D1)、石原(M1)の出場。依田は東

京学芸大学出身で、修士課程から東大院に所属していたが、陸上部には今年になってから加わり、ハーフマラソンのベストタイムは67分一桁台という実力者である。また、石原は先週の関カレ第1週の1500mで自己ベストを出し勢いに乗っている。他大の選手は強力だがなんとか上位に食らいつきたいところ。

直前に雨が降り出すあいにくの天気の中でのスタート。まずは依田が集団の中盤に、石原が後方につく展開で始まる。数km走ったところで石原が集団の中盤、依田が最後方に位置するが、依然として集団は大きな一塊のまま動き、5kmを石原が16'00"、依田が16'01"で通過するまずまずの展開となった。7km過ぎで集団が縦長になり依田がやや遅れ始め、そして石原も先頭集団からこぼれてしまい、10kmを石原が31'49"、依田が31'56"で通過する。それ以降、コース一周(約2km)あたり先頭から石原が50m、依田が100m程ずつ離されるような苦しい展開に。だが粘り強く走り、15kmを石原が47'52"の30位程、依田が48'33"の40位程で通過。その後苦しみながらも石原はペースを維持し着実に順位を上げ、67'19"の23位でゴール。依田も石原から大きく遅れるも何とか68'52"の40位でゴール。

石原は順位は23位だったものの悪天候にも関わらず自己記録まであと5秒という好走であった。依田は本来の力を発揮できなかったが、これからの巻き返しに期待したい。

#### フィールド1日目(5/17)

##### 10:00 2部男子槍投げ決勝

谷(3年)の出場。

谷は出場選手中5番目の記録を持っており、春先の怪我で少し調子を落としていたが、入賞はもちろん、表彰、優勝も狙えると思われた。さらに、気温もこの時期にしては高く暑いくらいで、東大記録の更新も期待された。練習投擲では1投目で55m近く、2投目で55mを越える投擲を見せたので、調子は良いようだった。

そして試技が始まり1投目、記録を残しにいった感じではあったが54m76のまずまずの記録。続いて2投目、57m56で2投目終了時点で6位となった。3投目は57m15と記録は伸ばせなかったものの、3投目終わって8位で決勝に残った。後半の試技も苦しみ、4投目ファール、5投目57m15、6投目ファールで記録を伸ばすことができず、結局そのまま8位で1点を獲得して、試技終了となった。やはり調子を落としていたのか自己記録には大きく及ばなかったが、入賞という、来年以降が期待できる結果であった。

#### 14:00 2部男子三段跳び決勝

倉員(5年)、武安(4年)、廣瀬(3年)の出場。午後になって曇りはじめたものの寒いというほどではなく、少しの追い風が吹く良いコンディションのなか開始されたが、たまに向かい風になる瞬間があり選手たちを悩ませた。廣瀬は走幅跳で関カレの標準突破を狙っていたため三段跳の練習があまり出来ていなかった。廣瀬は1跳目に14mを超える跳躍をみせるが、これが惜しくもファール。2跳目は13m41、3跳目もファールで実力を出し切れずに終わってしまった。武安はヘルニアで出場自体があやぶまれる状況から回復しての出場。1跳目は13m96でこの時点で8番手につけていたが、その後エイトのラインが14m49に上がってしまう。2跳目はファール。3跳目で14m01と記録を伸ばすが惜しくも届かず予選落ち。残念な結果ではあるが、腰をかばいながらの跳躍でこれだけの記録が出せるのはさすがで、今年の大対校戦に期待したい。倉員も十分得点を狙える実力を持っているが、練習不足が心配されていた。1跳目がファール。2跳目はステップでつぶれて13m73。3跳目はいい形で踏み切るが、力みすぎてバランスをくずし、ジャンプまでいけずに終わってしまった。

得点が期待されていたこの種目で点が取れなかったのは残念だが、3人とも実力はある選手なのでこれから調子を上げてほしい。

#### フィールド2日目(5/18)

##### 10:00 2部男子ハンマー投げ決勝

寺島(3年)の出場。直前の記録会では、不完全な形の投擲ながらベストを記録し、A標準を突破しているだけに期待がかかる。

1投目の直前、左利きの寺島用にサークルのネットを動かしていたところ、ネットが壊れてしまうハプニングが起こり、嫌な形で時間が空いてしまう。その1投目、回転の途中でハンマーを地面にぶつけてしまい、35m台に終わる。2投目、3、4回転目が窮屈になってしまうが、37m台に記録をのばす。3投目、2投目ほどではないが、やはり最後が詰まってしまい、振り切りが合わなかったものの、39m39のセカンドベストを記録し、22位であった。

今回はエイトラインが47m台という非常にハイレベルな試合であったが、寺島がベストの投げをすれば、もっと勝負ができただけに悔しい結果となった。しかし、まだまだ伸びを感じさせる内容なだけに今後の活躍に期待したい。

#### フィールド3日目(5/24)

##### 11:00 2部男子棒高跳決勝

大谷(4年)の出場。入賞ラインは4m50から4m60と予想されていて、今シーズン4m40の自己ベストを出して調子を上げている大谷には得点の期待がかかっていた。しかし、前の週の練習中に左足を肉離れしてしまい、テーピングをしての出場となった。競技開始直前にテーピングを巻きなおしたが良くなり、何本も跳ぶことは出来ないと判断し、練習跳躍はせずに助走の練習だけして、いきなり4m40に挑む。だがやはり足の状態が悪く1跳目、2跳目とも踏み切れずに走り抜けてしまい、3跳目をのこして棄権した。今回は悪いタイミングで怪我をしてしまったが大谷は大対校戦においては重要なポイントゲッターなので、まずは怪我をしっかりと治してまた頑張ってもらいたい。

#### フィールド4日目(5/25)

**12:30 2部男子走幅跳決勝**

尾崎(4年)、武安(4年)の出場。午前中降り続いた雨は止み、適度な気温、弱い日差し、風のほとんどない中で競技は行われた。尾崎はこの種目、前年の関カレで二部校優勝を果たしており今年も活躍が期待されるが、先日の肉離れの影響が大きな不安材料として残る。武安は腰痛の影響が心配されていたが、大会初日の三段跳で14m超の記録を残し復調の兆しを見せている。我が校の出場する最終種目ということもあり、両者ともに得点が期待される。

尾崎は1本目の跳躍で7m02のジャンプ。その後も調子を上げ、三跳目で7m25の跳躍、7位でトップエイトに残る。武安は一跳目で7m12の好記録。二跳目も7m超の跳躍を見せるが惜しくもファール。3跳目は手拍子を求めて7m19の自己ベストの跳躍。しかし今年はトップエイトのレベルが例年以上に高く、武安は惜しくも残ることが出来なかった。尾崎も4跳目で降記録を伸ばせず、結果8位で1点を獲得した。

尾崎、武安ともに直前と言える時期に怪我に遭い、満足の行く技術練習が行えなかった。そのような厳しい状況にあってもハイレベルな試合を戦いぬき得点争いを繰り広げた彼らのたくましい姿は、今後の対校戦でのますますの活躍を確信させるものであった。

**1.5 試合結果****第86回関東学生陸上競技対校選手権大会**

於 国立競技場(H17.5.13-14,18-19)  
於 日本大学陸上競技場(ハンマー投)

**2部男子100m決勝(+0.7)**

1	樋口慎一郎	立大	10"54
2	神山知也	作新学大	10"57
3	村上一博	国士大院	10"59
4	寺田隼也	千商大	10"69
5	大澤純弘	上武大	10"71

6	藤田敦史	神大	10"78
7	野澤泰	工学院大院	10"78
8	箕輪哲志	横国大	10"82

**2部男子100m予選(3着+4)****4組(-2.4)**

6	渡辺裕太	東大	11"26
---	------	----	-------

**2部男子200m決勝(+1.0)**

1	神山知也	作新学大	21"16
2	岩堀雅之	大東大	21"50
3	坂本寛典	平成国大	21"57
4	寺田隼也	千商大	21"59
5	村上一博	国士大院	21"94
6	伊藤裕一郎	埼大	22"12
7	青木邦成	都留文大	22"19
8	和田俊介	上武大	22"59

**2部男子200m準決勝(4着)****2組(-0.2)**

7	渡辺裕太	東大	22"55
---	------	----	-------

**2部男子200m予選(3着+1)****1組(-3.5)**

1	渡辺裕太	東大	22"75
---	------	----	-------

**2部男子800m決勝**

1	岡崎隼也	青学大	1'53"90
2	佐藤豪	専大	1'54"02
3	笠原慧	東工大	1'54"27
4	大沼睦	帝京大	1'55"03
5	坂本直樹	東農大	1'55"59
6	三谷裕淑	東農大	1'55"79
7	山崎達也	平成国大	1'55"82
8	高林祐介	駒大	1'58"09

**2部男子800m予選(1着+3)****5組**

7	新井邦生	東大院	1'59"94
8	斉藤俊	東大	2'01"11

2部男子 1500m 決勝

1	荒井輔	青学大	3'52"48
2	間島直行	流経大	3'52"99
3	萩原正則	東農大	3'53"24
4	高林祐介	駒大	3'53"25
5	細田祐司	中央学大	3'53"36
6	中山壮一	横国大	3'53"85
7	河村拓朗	駿河台大	3'54"72
8	池田宗司	駒大	3'54"73

2部男子 1500m 予選 (3着+3)

3組			
10	石原宏尚	東大	4'09"65

2部男子 5000m 決勝

1	豊後友章	駒大	14'08"79
2	山口祥太	国学院大	14'09"18
3	宇賀地強	駒大	14'11"40
4	深津卓也	駒大	14'12"35
5	吉川修司	亜大	14'15"89
6	久野雅浩	拓大	14'23"34
7	河村拓朗	駿河台大	14'25"34
8	武村佳尚	国学院大	14'25"68
24	松本翔	東大	14'45"74

2部男子 10000m 決勝

1	山口祥太	国学院大	29'16"56
2	安西秀幸	駒大	29'16"59
3	深津卓也	駒大	29'27"40
4	森本卓司	神大	29'28"11
5	佐々木悟	大東大	29'32"11
6	武村佳尚	国学院大	29'35"71
7	吉川修司	亜大	29'37"13
8	久野雅浩	拓大	29'47"00
14	松本翔	東大	29'54"51

2部男子 ハーフマラソン 決勝

1	佐々木悟	大東大	1:05:02
2	堺晃一	駒大	1:05:37
3	川内優輝	学習院大	1:05:40
4	藤田慎平	亜大	1:05:48
5	久保謙志	大東大	1:05:52

6	太田行紀	駒大	1:05:55
7	清水和朗	東農大	1:05:59
8	石田将教	神大	1:06:10
51	中山陽右	東大院	1:10:54
-	石原宏尚	東大	DNS

2部男子 3000mSC 決勝

1	佐藤匠	大東大	8'59"47
2	佐々木徹也	青学大	9'02"03
3	緒方孝太	亜大	9'03"20
4	五刀裕規	青学大	9'03"71
5	大野紘崇	中央学大	9'04"07
6	樅木謙雄	拓大	9'06"45
7	市岡敬介	青学大	9'07"24
8	渡部政彦	中央学大	9'09"07

2部男子 3000mSC 予選 (5着+2)

1組			
12	石原宏尚	東大	9'33"92

2部男子 110mH 決勝 (+0.6)

1	秋山祐介	埼大院	14"21
2	三村智之	玉川大	14"23
3	小林史長	東農大	14"30
4	齊藤太郎	山梨大	14"71
5	井上雄貴	立大	14"83
6	藤原泰裕	東学大院	14"83
7	神尾大樹	平成国大院	15"12
8	西野晃	平成国大	15"31

2部男子 110mH 予選 (3着+4)

3組 (-1.3)			
-	尾崎翔	東大	DNF

2部 10000mW 決勝

1	今井勇司	上武大	45'22"20
2	南裕太	平成国大	45'38"47
3	野口大輔	防大	45'45"51
4	今井裕太	平成国大	46'18"77
5	吉楽和也	東学大	46'59"34
6	吉田涉	平成国大	47'01"00
7	松田卓也	上武大	47'09"33

8	井上祐宜	上武大	47'57"53
11	和田光一郎	東大	48'28"97
12	菅野雄大	東大	49'21"72
15	北沢太郎	東大	50'53"82

## 2部男子4×100mR決勝

1	立大	41"05
2	国士大院	41"12
3	東学大	41"12
4	平成国大	41"18
5	創価大	41"30
6	神大	41"32
7	東農大	41"41
8	上武大	41"54

## 2部男子4×100mR予選(0着+8)

## 3組

4	東大	42"92
(藤本-渡辺-福田-尾崎)		

## 4組

6	東大院	44"99
(相川-米田-三好-坂田)		

## 2部男子4×400mR決勝

1	立大	3'13"89
2	上武大	3'14"16
3	平成国大	3'14"50
4	宇大	3'14"62
5	東農大	3'15"37
6	埼大	3'16"44
7	駿河台大	3'16"54
8	山梨大	3'16"70

## 2部男子4×400mR予選(0着+8)

## 5組

4	東大	3'22"25
(深澤-梶岡-伊勢田-今村)		

## 2部男子走幅跳決勝

1	尾崎翔	東大	7m28
2	石見源太郎	明学大	7m24
3	富田曜一朗	明海大	7m24

4	西岡将貴	大東大	7m16
5	吉田昌弘	順大院	7m09
6	原田達矢	山梨大	7m09
7	藤原泰裕	東学大院	7m08
8	武安光太郎	東大	7m08

## 2部男子三段跳決勝

1	木村友紀	東学大院	15m19
2	榎本徹也	千商大	15m11
3	西岡将貴	大東大	14m97
4	長谷川匡樹	創価大	14m92
5	藤原泰裕	東学大院	14m89
6	菅原祐己	群大	14m64
7	永山暢彦	文教大院	14m59
8	福良翔	横国大	14m57
9	武安光太郎	東大	14m56
15	倉員智瑛	東大	14m21
23	廣瀬彬	東大	13m40

## 2部男子棒高跳決勝

1	山本雄也	横国大院	4m80
2	鈴木吾郎	早大院	4m70
3	伊藤翔太郎	日体大専	4m70
4	安田猛	上武大	4m60
4	内川雄一	山梨大	4m60
6	上野慶貴	青学大	4m60
7	家永晴郎	日体大専	4m50
8	塚田伸哉	東農大	4m50
15	大谷真人	東大	4m20

## 2部男子砲丸投決勝

1	福田慎輔	国士大院	15m26
2	遠藤彰	国武大院	14m01
3	岡先聖太	早大院	13m83
4	相京優也	群大	13m80
5	松本有剛	玉川大	13m32
6	内山直彦	白鷗大	13m07
7	久保田尊士	山梨大	12m87
8	一條秀一	神大	12m81
27	北川昂広	東大	10m57

## 2部男子ハンマー投決勝

1	遠藤彰	国武大院	64m29(NGR)
2	横野哲郎	国武大院	62m03
3	横井貴臣	順大院	50m10
4	豊田真之	平成国大	49m69
5	高橋孝幸	東農大	47m72
6	渡部俊輔	上武院	47m42
7	秦知久	埼大	47m31
8	名取翔	平成国大	46m38
21	小笠原義之	東大	37m38
23	庄司宇	東大	30m90

2部男子やり投決勝

1	竹迫寿	早大院	68m38
2	井上直紀	東学大	64m54
3	池田圭三	平成国大	64m26
4	斉藤聡伸	千大院	62m84
5	関根拓也	上武大	62m03
6	熊田友弥	上武大	60m59
7	佐川太一	群大	59m04
8	松浦直人	東学大院	58m86
11	谷彰一郎	東大	57m63
19	関原孝之	東大	50m11

2部男子十種競技

1	田中悠士郎	国士大院	6791点
2	平松忠浩	国士大院	6563点
3	西野晃	平成国大	6520点
4	飯島篤史	千大院	6263点
5	沢辺直人	山梨大	6234点
6	是木滝彦	平成国大	6234点
7	岩下剛士	都留文大	6183点
8	山角俊哉	平成国大	6106点
13	持永新	東大	5682点

2部男子総合

1	平成国大	65点
2	駒大	49点
3	上武大	44点
4	大東大	42点
4	国士大院	40点
6	東学大	38.5点
7	立大	36点

8	青学大	33点
25	東大	9点

女子4×100mR決勝

1	日女体大	45"82
2	中央大	45"84
3	日体大	46"04
4	筑波大	46"12
5	都留文大	46"15
6	東女体大	46"50
7	早大	46"94
8	横国大	47"07

女子4×100mR予選(1着+4)

3組		
7	東京大学	53"18
	(大久保-清水-宮崎-日下)	

女子総合

1	筑波大	100点
2	日女体大	89.5点
3	日体大	86点
4	中大	76点
4	順大	58.5点
6	早大	46点
7	国士大	44.5点
8	都留文大	36点

## 2 国公立戦

### 2.1 監督の言葉

監督 寺田秋夫

-最悪のコンディションの中、良くも悪くも順当-

第56回東京地区国公立戦は終始15度前後の冷たい雨の中、上柚木競技場で行われました。例年のことながら、インカレと連戦になり、エース級は還元種目に回して4、5番手を多用する試合となり、更に怪我等のため選手を3人揃えられない種目もあり、試合開始前に「緊張感を欠いた試合にならないよう」確認して臨みましたが、学芸大に挑戦していく気迫には欠けた感がありました。

男子は学芸大が関東インカレ出場選手を、そのまま専門種目に使ってきて、得点的にも昨年と同点の218点を獲得したのに対し、本学は種目別の優勝が一つも取れず昨年の140点から後退の118点と離された感はありますが、今年はエースを欠いても全種目で得点はあげて、他大学に追いつかれることはなく得点争いは良くも悪くも面白みに欠ける展開で終始しました。

女子も大久保(3年女子短)を発熱で欠くも、この試合は院生を対校選手にできるので堀越(D3)を短距離・跳躍で、また、鈴木(1年女子中)を3000mに使うなどして全種目で得点の86点獲得で、こちらも終わってみれば無難な2位獲得でした。

記録は天候の影響もあり果敢しくありませんでしたが、棒高跳でエース大谷(4年)を欠きながら土居(1年跳)と原(2年混)で2,3位獲得、オープンで5000mで石原(M1)が、公認で初の14分台を出し、また、一年が東の15'43"72を筆頭に、16分台が5人と将来が楽しみな結果でした。また、兵頭を欠いて臨んだマイルリレーで学芸大と最後まで絡む気迫のこもった内容で3分23秒台が出たのはコンディションを考えるとまずまずでした。また、故障で復帰が懸念されていたエース陣の尾崎(4年短)、小福田(4年跳)、竹俣(2年長)、高山(2年女子跳)がそれなりの試技を見せ、また、拙島(1年短長)がレースごとに強さを取り戻しているのも良いことです。また、数名怪我からの回復待ちがいますが、四大戦が2週間後のため実戦で状況が七大戦前に確認できそ

うにないのが残念です。

男子はエースの今後の持って行き方とポテンシャルの高い1年の復調がどこまで行くかが注目という感じですが、ここは2,3年の奮起に期待して、チーム内の競争が良い方向に行くようにしていきたいと思います。女子は、堀越が使えない今後の試合は今回のように得点を計算して戦うのは難しくなりますが、中長に鈴木が入ったので、昨年のような無謀な選手構成にする必要がなくなり、高山の復調と合わせ今期は勝ちを目指して闘えるようになるかと思えます。

徐々にですが勢いを取り戻しつつあります、今後とも応援・ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

### 2.2 主将の言葉

主将 尾崎翔

この試合では、あえてチームとしての目標はアナウンスしてきませんでした。関東インカレで判明した、自分達に足りないことを試す絶好のチャンスであったため、あえて目標は部員一人一人に任せてきたつもりです。その他にも、怪我から復調しようとしている部員がいて、デビュー戦を華麗に決めようという部員がいて、新しい試合運びを試そうとしている部員などがいました。今回、そうした新しい試みをするためにもこの国公立という舞台を存分に使うことが出来たら、とっていました。

結果としては、各々の頑張りの積み重ねによって「いつも通り」の2位となりました。最終結果はいつも通りながら、きらりと光るパフォーマンスは随所に見られました。短距離では灰島(1年)が復調の兆しを見せ始め、中距離では川口(3年)が決勝で積極的な走りを見せてくれました。長距離ではエース竹俣(2年)を筆頭に1年生も含めて好走を見せてくれましたし、フィールドでは原(2年)が大車輪の活躍を見せました。このように、明らかに層が厚くなってきているということが窺えます。しかし、チームの次なる目標はあくまで「七大優勝」であり、その達成のためにはまだまだエースクラスのブレイクスルーが足りないといわざるを得ません。

そのブレイクスルーを得て、「いつも通り」の

結果を「いつも以上」の未来につなげていくために、意識改革を伴う努力を惜しまずに残りの月日を過ごしていきたいと思っております。これからも暖かいご声援を宜しくお願いいたします。

## 2.3 女子主将の言葉

### 女子主将 日下桃子

国公立戦は女子チームにとっては今季初戦となる大会でした。複数種目出場する女子選手にとっては長時間雨に打たれながらの試合は厳しいものでしたが、皆精一杯のパフォーマンスをし、首都大や外語大が力をつける中、昨年に引き続き総合2位を獲得することができました。しかしながら、学芸大には全く及ばず、四大戦や七大戦に向けてはまだまだ力不足だと実感させられる内容でした。まずは2週間後の四大戦に向けて調整し、その後鍛錬期をはさんで七大戦までに実力アップを図りたいと思います。これからもOBOGの皆様のご期待に応えられるようがんばりますので、変わらぬご指導とご声援をよろしくお願いいたします。

## 2.4 試合経過

### トラック

#### 9:15 男子 400m 予選

1組3レーンに浅羽(2年)が出場。今回はエース兵頭が負傷のため代走となる浅羽だが、小雨の降る国公立戦でどこまで力を出し切れるか注目だ。ゴールデンウィークの記録会では赤木が52"85、浅羽が53"12で勝利の女神は赤木に微笑んだ。浅羽には男としての意地にかけても一矢報いてもらいたいところである。スタートから快調にとばす浅羽は300mを3番目に通過。ラストで一人にかわされ4着でフィニッシュ。決勝への望みをつなぎ3組目に出場の赤木の走りを待つ。このときのタイムは52"85であった。

続いて2組5レーンに4年梶岡の出場。昨年のこの大会で同じ種目に出場した

梶岡はゴール手前2mで転倒、惜しくも決勝進出を逃して非常に悔しい思いを味わっている。リベンジを期す梶岡はスタートから快調にとばし、ホームストレートでは隣のレーンの優勝候補・荒川(東学大)と双壁をなす走りを見せ危なげなく決勝進出。タイムは51"75だった。

3組2レーンに2年赤木の出場。私生活では浅羽を凌駕する赤木ではあるが陸上に関しては実力伯仲である。前の組で浅羽にシーズンベストで並ばれたプレッシャーを感じながらも安定感のあるスタートを見せる。ホームストレートで一人をかわし3着でフィニッシュ。そのタイムは53"12であり惜しくも決勝進出を逃した。結果、浅羽がプラスの2番目で決勝に進出した。賢明な読者諸兄は既に気付かれているだろうが、先日の勝負のときと赤木・浅羽の立場は鏡像のごとくみごとに入れ替わったのだ。百分の一秒までタイムが一致するとはこの二人に不思議な因縁を感じざるにはいられない。二人はまだ2年生なので今後も数々の名勝負を繰り広げてくれるだろう。

#### 9:30 男子 100m 予選

1組4レーンで3年中島が出場。あいにくの雨というコンディションだが自己記録を更新すれば決勝進出も見えてくる。号砲が鳴り抜群のスタートをみせるが、他の選手がフライング。気を取り直しての2回目の号砲。1回目よりも少し反応が遅れるが、それでもいいスタートをきる。スタートから50m付近まではいい動きで先頭争いをするものの、課題の後半で遅れをとってしまう。粘りをみせるものの3着でゴール。向かい風0.5の中で、11"61の自己ベストを出すものの、惜しくも決勝には進出できず。

2組5レーンで3年都井が出場。自分の力を十分に出せば問題なく決勝に出場できる力を持っている選手だ。スター

トの合図とともに勢いよく飛び出すのが、4レーンの選手が抜群のスタートで後続をぐいぐい引き離す。都井は粘りを見せ食いついていき、後半もしっかりとまとめることができた。11"36の2着でゴールをし、プラスの1番目で決勝に進出を果たした。このときの風は無風。

3組3レーンで4年福田が出場。東大のエースとして是非とも優勝争いをしてほしい。号砲と同時に選手が飛び出すのが、福田はバランスをくずし出遅れた。50m付近まではなかなか前との差が縮まらないが、そこからはまとまりのあるいい走りを見せぐんぐん前との差を小さくしていき、2着でゴール。スタートの遅れが響き、タイムは11"52だった。このとき風は無風。

#### 10:10 女子100m 予選

女子100mには、まず1組7レーンに清水(3年)が出場した。女子パートは熱心な勧誘活動にも関わらず、今年も部員の獲得は出来なかった為、対校戦が続く時期での部員一人ひとりの負担は大きい。清水はシーズンに入ってから、記録を狙ったレースを走った回数は決して少なくはなかったが、なかなか自分の走りを取り戻せず、苦しんでいた。今回のレースは3着+2名が決勝へと駒を進める。同じ組にはベスト12秒台の選手が2人いたり、簡単には勝てないレースであるが、是非このレースをきっかけにタイムを取り戻し、決勝へと進んでもらいたい。スタートの合図とともに8人が勢いよく揃ってスタート。スタート直後、15mほどは清水がややリードしていた。しかし、やはり12秒台選手の強烈な後半の伸びにはなす術もなく、差を広げられていってしまった。隣の8レーンの選手と競り、何とか4着を取りたいところであったが、力及ばず、清水は14"05の5着でゴール。このときの風は-0.9mであった。この結果、プラス2名で拾

われるのを祈ることとなった。

続いて2組には堀越(D3)が出場。今年は陸上最後の年であり、短距離、跳躍とも精力的に練習に励んでいる。組内の実力的には十分決勝を狙っていける状態であるが、しかしまた余裕を持てるほどの差があるわけではなかった。スタートの光とともに堀越が力強くスタートする。悪天候の中を一步一步確実に踏みしめていくが、やはり格上の選手との差が徐々に開いていってしまう。ゴール付近、2レーンの選手を捉えるが、残念ながら抜き去ることは出来ず、堀越は13"62の4着でゴール。このときの風は+0.7mであった。この時点で決勝進出者が決定し、残念ながら清水は拾われず、堀越がプラス2名で拾われて決勝へ進んだ。清水には、今回のレース内容を生かして、四大戦、そして七大戦へとつなげていくことが望まれる。

#### 10:35 男子110mH タイムレース決勝

1組5レーンに4年尾崎、1組7レーンに酒谷、2組5レーンに堀内が出場し、タイムレースで行われた。大雨の中まず、1組目のレース。尾崎・酒谷ともスタートは悪くはない。尾崎の方がやや速くスタートしたものの、怪我明けかつハードル練習も十分に出来ていなかったこともあり、中盤で酒谷に先を行かせてしまう。酒谷は調子は良いが当日にスパイクを紛失したため、部員にスパイクを借りてのレース。スタートにまたまだ課題があるものの、中盤はスピードを上げた。優勝は14秒台の持ち記録を持つ学芸大の選手で、酒谷は差を詰められなかった。結果は酒谷は15"85の2位、尾崎は16"17の3位だった。このときの風はなかった。続いて2組目。補欠の入れ替えで出場した堀内は、テンポよくハードルをこなすもののスピードに乗れず、17秒を切ることができず、17"81の8位。このときの風は+0.3であった。まだまだ

改善の余地のあるハードル陣なので、しっかり技術練習に取り組んで七大戦を迎え活躍して欲しい。

#### 11:00 男子 200m 予選

1組4レーンに拙島(1年)の出場。申請記録21"90は全出場選手中トップの数字であり、余裕をもった1位通過が期待される。号砲が鳴る。果敢に飛び出す外側の選手群に比し、拙島はやや控えめな出だしで前方を伺う。コーナートップの通過は4~5番目程かと思われ、80m過ぎでも未だ前に3人程抱える苦しい展開。しかしながら、直線区間に入ると持ち前の馬力を発揮し、130mほどから猛烈なスパートで抜き去る。必死に食らいつく3位以下を横目でかわし23"19の2着でフィニッシュ。各組2着まで決勝進出が許される本種目において、順当に予選を通過した。この時風はなかった。

2組3レーンに福田(4年)の出場。申請記録上は組3着だが、上位との申請記録差は大きい。プラスで拾われたいところ。号砲と同時に100m選手らしい飛び出しを見せ、コーナートップで一気に加速。先頭も早い福田の粘りが良く、コーナーの出口では2~3着を争う展開。一気にスパートして抜き出ると思われたが、50m過ぎから疲労の色が見え、ゴール手前でやや失速。23"34の4着でフィニッシュ。このとき風は-0.1mであった。

3組7レーンに深澤(4年)の出場。ロングスプリントが本職の深澤であるが、スピードにも自信をつけてきた。関東インカレでPBをマークした好調を持ち込みたいところ。号砲が鳴る。苦手のスタートでやや出遅れ、序盤は低い位置につけるが、体の起き上がった40m過ぎからスピードに乗り始める。コーナー出口で上がってくる内側の選手に合わせるように中盤は競り合い、直線区間では追い風に乗り切るが、なかなか前を行く2選手を食う事ができない。

必死に食らいつくも23"65の3着でフィニッシュ。この時風は+2.2mであった。

プラスによる決勝進出ラインは23"31となり、福田・深澤は惜しくも決勝進出はならなかった。拙島の決勝での好走を期待したい。

#### 11:15 男子 800m 予選

男子800m予選は4組1着+4で行われた。学芸大や東工大の実力者がひしめくものの、3者とも今シーズン好タイムを出している選手なので決勝進出が期待される。

2組4レーンに渡邊(2年)の出場。400m通過が65秒というスローペースとなり、3人の先頭集団で進む形となった。2周目は集団でペースが上がる中、東工大の選手がするするっと一人抜け出す。渡邊は一橋の選手にコースをふさがれてしまい遅れをとってしまう。ラストの100mでスパートをかけるも届かず、2'05"37の2着でゴール。「こういう展開しか考えられなかった」というのが本人の弁だが、普通に走れば決勝進出するだけの力はあったのだから最初の200が32秒であった時点で自分で引っ張る位の判断はすべきであった。猛省を促したい。

3組5レーンに川口(3年)の出場。トップが1人抜け出す、落ち着いて400mを59秒で通過する。500m過ぎで一人に前に出られしまうが、そこで前にぴったりとくっつき、ラスト100mで抜きかかき、2'01"28の2着でゴールし、プラスで拾われ予選を通過した。

4組6レーンに須田(3年)の出場。この組も400mを60秒で通過し、須田を含む3人に絞られた。ここで接触などもあり、激しいレースとなった。ラストまでこの集団は崩れず、最後はスパートをかけるもののあと一步のところまで抜くことが出来なかった。須田は2'04"42の3着でゴールし、惜しくも予選通過はならなかった。

**11:55 男子 100m 決勝**

1レーンに4年福田、7レーンに3年都井が出場。福田は予選では思い通りの走りができなかったため、決勝では是非とも期待したい。

雨がいくらか小降りになる中で、スタートの号砲がなった。福田、都井ともにいいスタートもみせる。二人の選手が飛び出すものの、残りの選手はほぼ横一線で50m付近を通過。両選手とも後半の走りを課題としており、ここからの走りが大事になる。福田はピッチで刻みいい走りを見せるが、なかなか集団の中からは抜け出せない。都井は力強い走りで粘りをみせるものの、こちらも集団の中からは抜け出せず、結局福田は11"48の6位でゴール、都井は11"47の5位でゴール。風は無風だった。雨の中の試合でなかなかタイムは伸びなかった以上に、両選手とも競り合いの中で自分の走りがなかなかできなかったのが悔しかった。四大戦、七大戦ではもっと粘りのある走りを見せてもらいたい。

**12:00 女子 100m 決勝**

女子100m決勝には、予選をタイムで拾われた堀越(D3)が2レーンに出場。1つでも良い順位でゴールし、チームの得点を支えて欲しいところである。選手たちのベストを単純に比べると、厳しい戦いにはなりそうであり、また悪天候の中のレースではあるが、頑張ってもらいたいところだ。

スタートの合図で飛び出すのが、やや動きが固くスピードに乗り切れず、うまく加速できなかったように見えた。そこからなかなか走りを切り替えることが出来ず、堀越は予選よりもタイムを落として13"84の7位でゴール。このときの風は+1.8mであった。

気温も低く風も極端に強く、決して走りやすい状況とは言えなかったが、そんな中でもうまく自分の走りを合わせて、高得点に絡める実力を、是非とも

今後の堀越に期待したい。

**12:10 男子 400m 決勝**

2レーンに浅羽(2年)、6レーンに梶岡(4年)の出場。決して好コンディションとはいえないこの舞台、しかしながら条件は皆同じである。実力がそのまま出るであろうこの決勝の場で2人の順位に注目だ。浅羽は赤木との戦いに死力を尽くしてしまったのだろうか、スタートから動きにキレがない。そのままダラダラと走ってしまい無念の54"01で8位であった。一方、梶岡はというと前半積極的な走りを見せるものの終盤に至って勝負から取り残されてしまう。やはり故障による練習不足がたたったのであろうか、52"78の5位でフィニッシュ。

2人とも十分戦える力があっただけにこの結果は非常に残念であった。今後は1日に複数本戦える体力とともに安定した走りのためにメンタルも鍛えて欲しいと思う。

**12:15 女子 400m 決勝**

2組タイムレースで行われた。

1組5レーンに日下(3年)の出場。本大会、日下は3000mを欠場してスプリント種目に賭ける。組には60"を切る選手が二人いるが、うまく着いて上位を狙いたい。号砲が鳴る。スタートすぐ内側の選手に差されるが、落ち着いて対応し直線区間にさしかかる。200mを過ぎて大友(東学大)が頭一つ抜け出るが、他のは余り差のないまま通過。第二曲走路コーナートップ付近でもう一人集団から抜け出て、日下はこれに着いてかかる。直線区間に入って少しペースが落ち、内側から一人上がってくるがそれでもなんとかこれを振り切り62"37の3着でフィニッシュした。

2組2レーンに楠木(3年)の出場。400mに不慣れのためか号砲の反応にはやや鈍かったものの、程なく加速し、バックストレートで3位に浮上。200m付近で伸びを見せて先行する2選手を

捉えにかかる。第4コーナー入口で肉薄し、抜けるかと思われたが、スタミナが切れ直線区間で惜しくも失速。67"15の3着でフィニッシュした。タイムレースの結果、日下がそのまま3位となり6点を獲得。楠木は惜しくも100分の2秒及ばず9位であった。

#### 13:40 女子 3000m 決勝

鈴木(1年)の出場。鈴木にとってこの試合が大学デビュー戦となる。大雨で低い気温と決して良いコンディションではない中、どこまで自分の走りをする事ができるか注目された。

鈴木は積極的なスタートを見せ東京学芸大の2選手に付き、3番手で400mを84"で通過する。しかし、まだ十分に練習が詰めておらず体力不足のため学芸大の選手に徐々に引き離されてしまう。1000mを3'45"で通過するも、その後は苦しい走りとなり4周目で3選手に追い抜かれてしまう。さらに後ろを走っていた2選手も鈴木との差を詰めていくが、鈴木も最後までよく粘って逃げ切り、12'43"59の6位でゴールし3点を獲得した。

中盤は体力不足のため苦しい走りとなったが、前半を積極的に走り3点を獲得することができたのは十分に対校選手としての役割も果たしたといえよう。1年生ということで先は長く、フォームも伸びがあってきれいなのでこれから伸びる選手である。今後は怪我に気を付けてながらじっくりと練習を積み、夏以降の対校戦で戦うことのできる力をつけて欲しい。

#### 14:00 男子 200m 決勝

7レーンに拙島(1年)の出場。参考記録上は敵なしだが、受験期間中のプランクをどこまで埋められるか。関カレに続いて3週連続の対校試合であり、その疲労も懸念される。

号砲が鳴る。好反応で一歩飛び出した拙島であったが、30m手前で早くも体が浮く苦しい展開。ストライドの広い

豪快な走りで粘りを見せるが、内側から上がってくる河添(東学大)らを制することができず、コーナーを出た時点では6着ほど。それでも直線区間において伸びを見せ、残り50m付近から追走。外側の選手を一人食って、23"13の5位でフィニッシュ。この時風は+2.1であった。

陸上復帰2ヶ月であり、まだまだ本調子ではなかった。兵頭同様力はある選手なので、七大戦に向け早期復調が待たれるところである。

#### 14:10 男子 1500m タイムレース決勝

タイムレース決勝の1組目に割沢(6年)、石川(3年)、坂井(3年)の出場。持ちタイムでは割沢が8番手、坂井が9番手、石川が11番手であったが、レース展開次第では十分に得点出来るものと期待された。

号砲が鳴る。悪条件のためハイペースで引っ張ろうとする選手はおらず、400m通過1'10"、800m通過2'25"と、かなりのスローペースでレースは進む。雨でスタンドからは良く見えなかったが、この間にかかなりの肉弾戦が繰り広げられていた。鐘が鳴ってからの急激なスパートが予想出来る展開であったため、ラスト勝負に不安のある石川は800m通過後思い切って先頭に立つ。この時、割沢は落ち着いて対応し集団の中で様子を窺うが、集団の内側にいた坂井は押しつぶされるような形になり、転倒してしまう。残り1周の鐘が鳴ると予想通り集団は大きくペースアップ。この急激なペースアップに対応できたのは割沢だけで、石川は徐々に順位を落としてしまう。1200mの通過は割沢が3'32"、石川が3'33"、坂井が3'37"であった。割沢はキレのある走りでホームストレートに入るも苦手としている最後の直線で失速し、4'21"24で8着(8位)、転倒後に粘りを見せた坂井が4'26"32で11着(13位)、石川は力尽きて、4'27"15で13着(15位)で

あった。この結果、本学は1点を獲得した。レース自体は、最後の500mを72秒でカバーした東工大の2人がワンツーを占めた。

持ちタイムから妥当な結果ともいえるが、選手の仕上がりの良さからより高得点が期待されていただけに不本意な結果となった。単純な走力だけでなく、レース運びや位置取りなどの戦略も勝つために重要なポイントであることを、改めて思い知らされるレースであった。

#### 14:30 男子400mH タイムレース決勝

本大会の400mHは3組タイムレースで行われた。

1組2レーンに深澤(4年)の出場。参考記録順に上位から組分けが行われており、関東インカレで自己新をマークし波に乗る深澤は1組に入る事ができた。熾烈な争いの中で好記録が期待される。号砲が鳴る。外を行く先頭集団が序盤から飛ばす中、深澤はまず落ち着いた走りでも無難にハードルをこなす。バックストレートから第二曲走路にかけては一つ外側の選手との競り合いになり、さらにラスト100mからは先頭から一人落ちてきて後方3人での争いになるが、深澤は持ち前の走力でハードリングをカバーしつつ粘りの走りを見せる。結局58"03の4着でフィニッシュした。

2組4レーンに酒谷(2年)、5レーンに門脇(4年)の出場。酒谷は関カレから続く好調の流れに乗って、門脇は400mH一筋の経験を武器に、上位入賞を狙いたい。二人とも号砲に反応良く飛び出し、難なく1台目、2台目のハードルを通過。その後バックストレートで酒谷が猛然とスパートをかけ、頭一つ抜き出る。酒谷はその後7台目あたりまで集団をリードするが、ラスト100mでスタミナが切れ内側の選手に差されてしまう。そのまま59"32の2着でフィニッシュ。門脇はバックストレートで遅れた分を必死に巻き返そう

とするが、直線区間での追い込みに欠けあと一歩及ばず、59"98の3着でフィニッシュした。

タイムレースの結果、深澤がそのまま4位、酒谷と門脇がそれぞれ7、8位入賞し、計8点を獲得した。

#### 14:50 男子800m 決勝

1レーンに川口(3年)の出場。実力者の多くいる国公立の決勝ではあるが、彼もベストタイムで好記録を持ち、上位入賞の期待が高まった。

号砲が鳴る。雨という天候で本日2本目ということもあって、周囲があまり積極的に出てこない中、川口は最初から積極的に飛ばし得意のレースパターンに持ち込む。先頭となってレースを引っ張るも、本人がレース後言っていたように「うまくスピードに乗れず」最初の400mは58秒と速くもなく遅くもない中途半端な通過となってしまふ。そこから東工大の笠原などの実力者が後ろからペースを上げはじめる。川口はそれになかなかうまく対応ができず遅れをとってしまう。その後はうまく切り替えられず、700m過ぎで1度は8番目になってしまう。しかし、ラスト100m付近からペースを切り替え、ラスト30m付近でなんとか1人を抜き返し、2'03"66の7位でゴールした。

結果としては関東インカレ運営のための練習不足が祟った形にはなったが、前半の積極的な走りや後半の粘りなど川口らしい走りを見せ、次につながる内容のあるレースであったといえよう。本人曰く「スパイクの硬いソールに筋力が負けている」とのことなので、これからしっかりと筋力強化をした上で対校戦ではしっかりと結果を出してもらいたい。

#### 14:55 女子800m 決勝

1組5レーンに日下(3年)の出場。昼前に一旦おさまりかけた雨も再び強くなり厳しいコンディションの中、400mに続いて本日2本目のレースとなった。

東京学芸大は800mの関カレーヤーを使っておらず、上位入賞が期待できる。学芸大に付いていく展開にもっていかうといつもより抑えたスタートをしたものの、アウトレーンからのスタートだったため、始めから積極的に行っていたイン側の学芸大の選手たちの動きを見ることができず、オープンレーンになったところで遅れをとってしまう。学芸大の1番手はあっという間にリードを広げてしまい、日下はやむなく学芸大の2番手に付く。そのままレースは進むが疲れからかキレがなく、1周目は71秒。東京外国語大の選手にも前に出られてしまい一瞬不安がよぎったが、これで火がついたのか、外語大の選手を第1コーナー付近で抜き返すと、バックストレートでうまく間をつめて学芸大の2番手に追いつき、スパートする。ラストの直線でもさらに切り替え、リードを保ったまま2'24"12の2位でゴールした。

持ちタイムから学芸の1番手との勝負になるのではと予想されていたが、彼女らの積極策に対応できないままに順当な順位に納まってしまったのは残念であったが、予想外の展開にも対応が取れた点にはレースパターンの広がりを感じさせてくれた。四大戦ではタイムにも期待したい。この結果本学は7点を獲得した。

#### 15:05 男子4×100mR タイムレース決勝

5レーンに中嶋(3年)-福田(4年)-都井(3年)-尾崎(4年)の走順で出場。怪我からの復調気配を見せる尾崎を徐々にアンカーに起用。1走にはスタートダッシュに長けた中嶋を配しその爆発力に期待する布陣。申請記録では東学大が抜きん出ているが、雨による悪条件がレース展開をどう左右するか。

まず、中嶋が号砲に好反応を見せ、得意のスタートで他校に引けを取らない走りを披露。この日対校100mでPBを

叩き出した勢いそのままに加速し、福田にバトンが渡った。2走の福田は多種目出場による疲労が懸念されたが、なおもチーフとして意地の走りを展開。内側から上がってくる東学大に苦しみながらも、必死に食らいつき2走としての役目を果たす。ややもたついた状態でバトンを受け取った都井も、持ち前の加速で前を窺うが、周りを好走者に囲まれ、また後半やや失速気味になり、じりじりと後退する。アンカー・尾崎は勝負強さを発揮したいところであったが、感覚が戻っていないのか終盤追い進めることができず、結局43"80の4位でフィニッシュ。

悪条件の中にあって安定したバトンワークが見られ、技術面で大いに進歩を見せたが、4人ともが多種目出場となり疲れも見られ、層の薄さを露呈する結果になってしまった。七大戦での進化に期待したい。

#### 15:15 男子5000m 決勝

梶井(4年)、山崎(3年)、竹俣(2年)の出場。梶井は昨年度の優勝者。山崎は5月に復調して自己ベストに近いタイムをマークしており、また5000mで14分台の記録を持つ竹俣は今大会の優勝候補。3選手とも実力はあるが、それぞれ体調不良や怪我の影響で万全の調子ではない中、その真価が問われる試合となった。

5月としては低い気温だが、あいにくの雨が降りしきる中でレースはスタート。1000mの通過が3'08"とスローペースになる中、東大の3選手は集団前方から中程につけレースを進める。だが、2400m付近で首都大の選手がペースアップすると、集団は一気に縦長になった。竹俣・山崎はこの変化に対応し、それぞれ2・6番手につけるが、梶井はここで集団から徐々に離されてしまう。3000mの通過は9'28"で先頭集団は約10人となった。3600m付近で今度は竹俣がトップに出て仕掛け、先頭集

回は5人に絞られる。山崎はここで前と離され苦しい展開に。竹俣はそのままの勢いでラスト1周でスパートをかけ、そのまま逃げ切るかと思われたが、ラスト100mで学芸大の栗原にかわされ、15'21"19の2位でゴール。惜しくも優勝を逃した。山崎は何とか粘って15'43"16の8位で入賞を果たした。梶井はレースを立て直すことが出来ず、16'05"31の13位に終わった。

この種目で東大は8点を獲得したが、選手が本来の走りをすれば、更に得点を重ねられたように思われた。今後、四大戦・七大戦での巻き返しが期待される。

#### 15:40 女子4×100mR 決勝

4レーンに清水(3年)-堀越(D3)-日下(3年)-高山(2年)の走順で出場。本大会、東学大には800mを除く全種目で15点獲得を許しており、女子チームとしては最終種目である本リレーで一矢報いたいところ。また、農工大・東外大とも実力は拮抗しており、油断ならぬ戦いを強いられる。

1走の清水は100mの借りを晴らす好スタートを切る。序盤から集団がばらける荒れたレース展開にあってそれでも安定した位置をキープし、堀越とのリレーゾーンにさしかかる。バトンワークはやや詰まり気味となるが、堀越のバックストレート中央付近からの伸びがよく、危なげなく後続との差を広げる。しかしカーブ抜きの東学大との差は広がり続け、堀越はほぼ一人旅で日下にバトンをつなぐ。日下も良い飛び出しを見せるが、多種目出場の疲れからかやや終盤は失速。対校種目としては久々のリレー復帰となる高山もじわじわ差を詰められるが、粘りきり55"20の2位でフィニッシュ。安定した順位は確保したものの、関カレ準決勝進出校との力の差を見せつけられたレースであった。女子主将・日下の「四継チームはもっとできるって信じてま

す」という言葉を信じ、七大戦ではさらなる飛躍を期待したい。

#### 15:50 男子4×400mR タイムレース決勝

2組タイムレースで行われた。

2組6レーンに小福田(4年)-深澤(4年)-舩島(1年)-梶岡(4年)の走順で出場。先の記録会で好記録をマークした小福田を兵頭に代えて起用。後ろの3人は多種目出場による疲労が気になるが、粘りの走りで高得点を狙いたい。また、同組には関東インカレ4位入賞の東学大がおり、胸を借りる良い機会といえる。

まず号砲とともに小福田が勢い良く飛び出す。積極的に前半から飛ばし、200m地点まで東学大と同等に張り合う好走を見せる。その後ややリードされるも、最後まで粘りの走りを見せ、ラップ50"かという大健闘でバトンをつなぐ。深澤は一転ゆったりした入りで前方を窺う。バックストレートでやや先頭には離されるが、ラスト50mからの粘りが良くさほど離されないまま舩島にバトンが渡る。舩島は200m付近まで安定したペース。その後やや先頭のペースが上がるが、これにも落ち着いて対応し、ラスト50mでついに東学大の背中を捉え、一気に抜き出てトップに躍り出る。リードを守り抜きたい4走・梶岡は積極的な入りを見せ、バックストレート一気に引き離しかかるが、差はなかなか広がらない。それでも300mまで粘りの走りを見せるもの、残り100mで捉えられ、そのまま2着でフィニッシュ。1組の1着の記録を上回ったため、種目としての順位も2位に確定した。関カレ入賞校相手の大健闘であったが、勝ちきれなかったのは悔しいところ。舩島が実戦を積み、エース兵頭も復調の気配が出てきたので、七大戦のマイルチームに期待したい。

## フィールド

9:15 男子砲丸投 決勝

北川(4年)、寺島(3年)、原(2年)の出場。

朝から雨の降る、5月の終わりにしては寒い天候の中行われた。記録的に東大はトップエイトに3人共残ることが期待された。

3人共アップ不足な感があり、試技が開始されて1投目はあまり記録は出なかったが、2投目、3投目までに北川が9m94、寺島が8m85、原が8m65を投げ、それぞれ、2位、5位、7位でトップエイトに3人全員が残った。後半の試技は北川は滑ってしまい記録が伸びず、他の二人も記録を伸ばすことはできなかった。最終的に記録はそのまま、北川2位、寺島6位、原7位で12点を獲得して試技終了となった。

雨の中周りの選手も記録が伸びず、記録は悪いがなんとか順位を確保した。記録はこれからのシーズンにしたい。

9:15 男子三段跳 決勝

廣瀬(3年)の出場。他の対校選手は故障のため、欠場した。この時点で期待されていた三段跳での対校得点が大幅に減ってしまった。足合わせの時間から雨が降り、気温もなかなか上がらず、体を温めるのが難しい天候であった。廣瀬は2週間前の関東インカレの三段跳で思うような結果が残せなかったため、この大会でいい結果を残し、2週間後の四大戦に弾みをつけたいところである。1跳目で13m40の記録を残してトップエイトをほぼ確定させ、2跳目以降の記録の更新に集中できるようになり、ファールの多い廣瀬にとって理想の展開となった。しかし、残りの跳躍は残念ながら全てファールとなってしまう、結局13m40の2位で試技を終えた。

雨と低温で体が思うように動かないとはいえ、13m中盤という低調な跳躍し

かできなかったのは反省すべき点である。今後の大会でも廣瀬の実力を必要とするため、一層の奮起を期待したい。

10:30 男子走高跳 決勝

小福田(4年)、荒井(3年)の出場。気温は低いままだが、雨は小降りになってきて競技の途中には降りやむ時間帯もあった。

荒井は今回、自己ベスト更新となる1m60を目標として1m55から競技を開始した。1跳目は助走が合わず失敗。2跳目、3跳目も高さはあったのだが足をバーにひっかけて失敗して記録なしにおわってしまった。高さは出ているので技術練習をつんで早く対校戦で上位を狙えるようになってほしい。小福田は悪天候の中、練習跳躍で1m80を跳び上位入賞を期待させた。1m70から競技を開始して、これをかすりながらも1回で成功させる。つづく1m75は助走が合わず2回失敗してしまうが、3回目は見事な跳躍で余裕をもってクリア。この跳躍が出来れば1m80もクリアできると思われたが、1m80は惜しい跳躍はあったものの3回失敗してしまう。小福田は1m75で2回失敗しているため、同記録の選手の中では一番下の5位になってしまった。小福田は失敗が多いのでこのように順位が下がってしまうことが多く、もったいない。この点は今後の課題だろう。結果、走高跳では4点を獲得した。

11:45 男子棒高跳 決勝

原(2年)、土居(1年)の出場。断続的に雨が降り、弱いながらも風の巻くコンディションの中競技が行われた。

原、土居共に2m80からの試技を開始。土居は競技前の助走合わせの際に、怖気づいて8歩で踏み切ることができず、2m80、2m90、3m00いずれも最初の試技を8歩の足合わせに使った後、短助走でクリアをしていたが、結局8歩でポールを突っ込むことはできず、3m00の短助走の際にも雨でグリップが滑り

失敗。2m90で試技を終えた。雨対策、思い切りのよい突っ込みの出来ていない、最悪の試合であった。これから、高いグリップで踏み切ることができるようになることと、メンタル面での成長が必要だろう。原はこの日好調で、足合わせの段階からポールがよく立っていた。2m80をクリアし、2m90をパス。3m00を1跳目で高さに余裕をもって越え、自己ベストとなる3m10も、1跳目で、やはり高さに余裕をもってクリアした。3m20は、1跳目、2跳目とバーに触れて落としながらも、3跳目には修正し、見事バーを越えたが、クリアが不十分だったポールがバーに当たり、失敗となってしまった。コンディションの悪い中での自己ベスト更新は見事で、更なる記録も期待される。これからは、より上を目指すために、ポール曲げや、ターン、振り上げの練習が必要だろう。

結果、原が3m10で2位、土居が2m90で3位となった。出場者の少なさや悪天候のためこのような順位となったが、七大戦を戦う上では、まだまだレベルアップが必要である。

#### 12:20 男子円盤投 決勝

持永(M1)、谷(3年)、原(2年)の出場。朝よりは少し寒さはましになったが、雨がパラパラと降り続く中行われた。砲丸に引き続き、この種目も3人がトップエイトに残ることが期待された。

3人共いい投擲が少なかったが、谷は1投目で24m90を、原が2投目で23m11、持永も3投目で27m19を投げて、3人全員がトップエイトに残った。雨が降ってて円盤が滑り易いせいとか、他の選手もあまり記録を伸ばせなかったが、東大の3人も記録を伸ばすことが出来ず、最終的に、持永が3位、谷が7位、原8位で9点を獲得して試技終了となった。

この種目も砲丸投同様記録はあまりよくなかったが、シーズン中に記録が伸

びてくることに期待したい。

#### 13:45 男子走幅跳 決勝

尾崎(4年)、廣瀬(3年)、西田(2年)の出場。朝から降り続く雨は一向に止まず、かなりの寒さを感じられる中で競技は行われた。

厳しいコンディションの中、1跳目の跳躍は三者ともにファール。廣瀬は続く2跳目、3跳目も足を合わせられず記録なしに終わる。西田は2跳目はファールであったが3跳目は慎重に記録を残しにいき、6m13でトップエイトに残る。尾崎は2跳目で6m63を跳び2位で折り返し、続く3跳目に逆転の期待が寄せられる。しかしこの後は尾崎、西田ともにファールで記録を残せず、結果尾崎が2位、西田が6位で計10点の獲得に終わる。

今回は3選手ともにファールに苦しめられ、特に廣瀬は1つでも記録を残せば確実に得点が期待出来る選手であったため非常に残念であった。この競技に限らず部員は悪天候の中でも十分力を発揮出来るような練習を積んでいかなければならない。

#### 13:45 女子走幅跳 決勝

堀越(D3)と高山(2年)の出場。堀越は春先に5m06の自己記録を出しており、今季は走幅跳に力を入れている。高山は昨年の一橋戦での怪我からの復帰戦であり、両者とも気温の低い中、どこまで勝負に絡めるかが注目された。雨に加え、変わりやすい向かい風が吹き、出場者の記録は全般として低調であった。堀越は1跳目に4m60を記録する。しかし助走が安定せず、試行錯誤を続けるも2跳目以降に記録を伸ばすことができなかった。1跳目に記録した4m60で3位であった。高山は助走でスピードに乗れず、踏み切り動作が行えない。試技順3番目でエイトに残ったが、結局1跳目に記録した4m33で6位であった。この種目で2人が獲得した得点は9点であった。堀越は走

力が上がってきており、踏切に結びつくことが今後期待される。高山は、ようやく走れるようになってきたので、技術練習を積み跳躍感覚を取り戻すことを期待したい。

**14:00 男子やり投 決勝**

北川(4年)、葉梨(4年)、原(2年)の出場。

午後になり少し雨が強まり、気温も下がってきた中試技が開始された。この種目は記録的には北川、葉梨の二人がトップエイトに残ることが期待された。

悪天候の中どの選手も投げに苦しみ、中でも、葉梨は3回中2回ファールで3投目までで35m85、北川も3投とも全く飛ばず、33m30と、二人共トップエイトに残ることができなかった。しかし、なぜか原は雨を感じさせない投げで、ベスト更新となる38m74を3投目に投げて、8位でギリギリトップエイトに残った。原は5投目で39m92とまたベストを更新して、順位を一つ上げ、7位で2点を獲得し、試技を終了した。

北川と葉梨は残念な結果となったが、原は雨の中まずまずの結果が残せた。これからも頑張ってもらいたい。

**14:00 女子やり投 決勝**

楠木(3年)の出場。朝からの雨が降り続き気温も低い中での試合となった。楠木はやり投を専門にする選手ではないものの、女子唯一の投擲選手であり、女子にとっては比較的入賞しやすいこの大会で1点でも多い得点の獲得が期待された。

1投目では確実に18m96を投げたが、2投目と3投目ではタイミングを誤り記録は15m台に落ち込んだ。3投目までで全競技者中5番目の記録でトップ8に残り4投目以降に臨んだが、ここで一旦雨が弱まり、他の選手が記録を伸ばし始め、2人の競技者の4投目の記録に抜かれてしまった。続いて楠木

も4投目を投げるも覆すことができず、5投目と6投目ではファールを連発し、結局1投目の記録で18m96の7位であった。

楠木は昨年と同じ試合よりも順位を落とし、自己記録にも及ばず残念な結果になった。以降の対抗戦では、専門の砲丸投が対校種目となるので実力を発揮してほしい。

**2.5 試合結果**

第55回東京地区国公立大学対校陸上競技大会  
於 上柚木陸上競技場(H17.5.26)

男子の部

100m 決勝 (+0.5)			
1	高橋修平	東学大	10"86
2	藤田裕樹	電通大	11"04
3	高畑大海	東学大	11"20
4	河野雄飛	首都大	11"24
5	都井紘	東大	11"35
6	中田瑛治	首都大	11"36
7	栗原諒	東学大	11"45
8	福田篤	東大	12"80

100m 予選			
1組 (+2.5)			
2	中嶋毅彰	東大	11"57
2組 (+2.2)			
2	福田篤	東大	11"44
3組 (+0.2)			
2	都井紘	東大	11"35

200m 決勝 (+1.0)			
1	河添広	東学大	21"98
2	荒川洋一	東学大	22"42
3	藤田裕樹	電通大	22"50
4	今村岳	東大	22"52
5	山原和馬	首都大	22"78
6	川島優	首都大	23"36

7	猪石篤	東学大	23"68
8	荒瀬仁志	一橋大	24"00
200m 予選			
2組 (+1.8)			
2	今村岳	東大	22"52
3組 (-1.6)			
2	柴田渥史	東大	23"68
4組 (-1.5)			
5	水上雄太	東大	25"39
400m 決勝			
1	鈴木大地	東学大	49"66
2	桑原利明	首都大	50"16
3	田村伸行	電通大	50"24
4	深澤眞楠	東大	50"80
5	斉藤諭	東工大	50"88
6	小澤聡	東大	52"94
7	鈴木楓太	一橋大	53"29
8	山口恒	電通大	54"55
400m 予選			
1組			
3	深澤眞楠	東大	50"81
2組			
2	小澤聡	東大	51"6
3組			
7	梶岡利之	東大	56"24
800m 決勝			
1	笠原慧	東工大	1'58"71
2	三宅佑哉	首都大	1'59"14
3	斉藤俊	東大	1'59"70
4	大堀哲央	東工大	1'59"85
5	大懸大也	首都大	2'00"74
6	野村圭吾	東大	2'01"17
7	古井啓介	東学大	2'03"10
8	石橋俊輝	一橋大	2'03"85
800m 予選			
2組			
2	野村圭吾	東大	1'59"94

3組			
1	斉藤俊	東大	2'01"58
4組			
2	坂井啓一	東大	2'02"00

1500m タイムレース決勝			
1	松本翔	東大	4'03"33
2	國友正信	東工大	4'06"57
3	廣澤努	東学大	4'09"40
4	齋藤祐一	東学大	4'12"79
5	今井明士	首都大	4'13"03
6	池内喜郎	首都大	4'14"44
7	浅川健	東学大	4'15"98
8	緒方甫哉	外語大	4'16"06
9	田中裕一郎	東大	4'17"09
15	石川恭平	東大	4'26"84

5000m 決勝			
1	梅井俊介	東大	15'53"37
2	森田雄祐	一橋大	15'56"45
3	阿部敏之	電通大	16'01"21
4	山口貴史	東学大	16'04"27
5	江島平祐	一橋大	16'09"23
6	岩淵順平	海洋大	16'09"54
7	山田健太郎	東大	16'10"02
8	若林賢司	農工大	16'11"50
17	松永将幸	東大	17'04"21

110mH タイムレース決勝 (+0.2,+0.5)			
1	藤原泰裕	東学大	14"76
2	太刀川和也	外語大	15"45
3	松山直輝	東学大	15"63
4	田村伸行	電通大	16"07
5	坂本憲亮	東学大	17"05
6	橋本拓哉	首都大	17"13
7	織江章裕	東工大	17"23
8	中村拓磨	電通大	17"33
10	江間輝裕	東大	18"15
11	堀内敦史	東大	18"32
13	酒谷彰一	東大	18"94

400mH(タイムレース決勝)

1	松本和裕	東学大	53"61
2	田村伸行	電通大	54"03
3	大久保宏晃	東学大	54"85
4	藤原将博	東学大	55"16
5	伊勢田明弘	東大	56"93
6	深澤真楠	東大	60"52
7	柳澤拓弥	電通大	60"97
8	太刀川和也	外語大	61"19
9	門脇啓太	東大	61"95

4 × 100mR タイムレース決勝

1	東学大	41"82
2	東大 (中嶋-渡辺-都井-今村)	42"87
3	首都大	43"57
4	東工大	44"04
5	電通大	44"43
6	一橋大	44"84
7	外語大	46"31
8	農工大	49"08

4 × 400mR タイムレース決勝

1	東学大	3'17"84
2	首都大	3'23"11
3	東大 (梶岡-伊勢田-小澤-深澤)	3'23"53
4	東工大	3'24"45
5	電通大	3'25"73
6	一橋大	3'31"54
7	外語大	3'31"17
8	医歯大	3'36"68

走高跳決勝

1	岩田康弘	東学大	2m00
2	武井泰宏	首都大	1m95
3	石川順章	一橋大	1m95
4	松山直輝	東学大	1m90
5	小茂田洋輔	首都大	1m75
6	平山晃一	一橋大	1m75
7	織江章裕	東工大	1m75
8	小福田大輔	東大	1m70
10	地子智浩	東大	1m60

- 倉員智瑛 東大 DNS

棒高跳決勝

1	大谷真人	東大	4m00
2	橘晃嗣	東学大	3m60
3	中嶋祐介	東学大	3m60
4	木村剛	東大	3m40
5	伊藤雅	東学大	3m30
6	関原孝之	東大	3m00

走幅跳決勝

1	藤原泰裕	東学大	7m18(NGR)
2	尾崎翔	東大	7m04(NGR)
3	清崎彰一	東工大	6m70
4	石川順章	一橋大	6m55
5	廣瀬彬	東大	6m44
6	伊藤雅	東学大	6m42
7	植竹敦	東工大	6m26
8	鈴木楓太	一橋大	6m09
12	地子智浩	東大	5m92

三段跳決勝

1	藤原泰裕	東学大	14m97
2	石川順章	一橋大	14m13
3	廣瀬彬	東大	14m02
4	植竹敦	東工大	12m97
5	大谷真人	東大	12m95
6	屋比久裕	東工大	12m74
7	前島靖之	東学大	12m55
8	西村仁志	首都大	12m40
-	倉員智瑛	東大	DNS

やり投決勝

1	大原一成	東学大	50m50
2	関原孝之	東大	49m03
3	中嶋祐介	東学大	47m14
4	葉梨輝	東大	45m14
5	木全由一	外語大	44m94
6	金子大輔	農工大	44m78
7	高松祐輝	一橋大	42m90
8	千葉伸宏	東大	42m83

砲丸投決勝			
1	藤原康隆	東学大	12m63(NGR)
2	北川昴広	東大	11m07
3	市浦友也	東学大	10m96
4	小林宗隆	東大	10m50
5	大原一成	東学大	10m28
6	柏倉洋平	海洋大	8m99
7	飯塚弘之	電通大	8m93
8	土井理	首都大	8m55
11	寺島孝明	東大	7m88

円盤投決勝			
1	市浦友也	東学大	39m88(NGR)
2	大原一成	東学大	34m75(NGR)
3	藤原泰隆	東学大	30m70
4	庄司宇	東大	30m12
5	小林宗隆	東大	28m89
6	谷彰一郎	東大	24m85
7	飯塚弘之	電通大	22m96
8	高松佑輝	一橋大	22m54

トラック順位		
1	東学大	114
2	東大	65
3	首都大	56

フィールド順位		
1	東学大	104
2	東大	75
3	一橋大	24

総合順位		
1	東学大	218
2	東大	140
3	首都大	71

## 女子の部

100m 決勝 (-2.0)			
1	川口夢加	東学大	12"55
2	草川鮎子	外語大	13"01

3	鈴木菜月	東学大	13"11
4	剣持由莉香	首都大	13"45
5	坊田裕美	首都大	13"48
6	清水蘭	東大	13"64
7	池田伸子	お茶大	13"80
8	揚玲美	一橋大	13"98

100m 予選			
1組 (-2.1)			
3	清水蘭	東大	13"77
2組 (+1.3)			
5	大久保渥子	東大	13"89

400m 決勝			
1	大友稚弘	東学大	59"05
2	日下桃子	東大	61"92
3	三ツ松祥子	外語大	62"12
4	堀越彩香	東大	62"47
5	岩間望	農工大	63"16
6	本間聡子	東学大	64"42
7	池田伸子	お茶大	65"34
8	秋本梢子	お茶大	66"05

800m 決勝			
1	廣江早紀	東学大	2'17"25
2	田島香織	東学大	2'19"06
3	日下桃子	東大	2'26"08
4	山縣千尋	医歯大	2'31"74
5	岩瀬奈津子	医歯大	2'42"18
6	藤野りつこ	外語大	2'43"93
7	桑野李沙	お茶大	2'48"29
8	小柳弥生	お茶大	2'49"01

3000m 決勝			
1	土井友里永	東学大	10'15"57
2	竹林由香	東学大	10'50"47
3	日下桃子	東大	11'21"06
4	桑名李沙	お茶大	12'04"17
5	奥田麗子	一橋大	12'25"28
6	喜多友実	お茶大	12'59"95
-	山崎七愛	農工大	DNF
-	藤野りつこ	外語大	DNF

4 × 100mR 決勝		
1	東学大	50"78
2	外語大	52"68
3	首都大	52"79
4	東大	54"18

(大久保-清水-楠木-高山)

5	農工大	55"62
6	お茶大	58"02

走幅跳決勝			
1	鈴木菜月	東学大	5m46(NGR)
2	石橋久美子	東学大	5m29
3	堀越彩香	東大	4m96
4	高山花子	東大	4m89
5	田中紀子	首都大	4m65
6	草川鮎子	外語大	4m46
7	野村優里	外語大	4m42
8	池ヶ谷真希	一橋大	4m40

やり投決勝			
1	山田清香	東学大	35m20
2	佐藤祥	東学大	33m24
3	池ヶ谷真希	一橋大	29m75
4	楠木千尋	東大	21m51
5	岩瀬奈津子	医歯大	19m05
6	大久保渥子	東大	15m70
7	廣瀬直美	お茶大	15m30
8	三ツ松祥子	外語大	11m33

トラック順位	
1	東学大 63
2	東大 32
3	外語大 23

フィールド順位	
1	東学大 30
2	東大 19
3	一橋大 7

総合順位

1	東学大	93
2	東大	51
3	外語大	29

### 3 2008年度部内5傑 2008.5.31現在

#### 男子 100m

1	福田篤 (4年)	11"20(+1.7)	4.20
2	都井紘 (3年)	11"30(+1.4)	5.4
3	藤本元太 (5年)	11"50(-0.6)	4.5
4	中嶋毅彰 (3年)	11"61(-0.5)	5.31
5	深澤眞楠 (4年)	11"61(不明)	5.6

#### 男子 200m

1	肱島一樹 (1年)	23"19(+0.0)	5.31
2	福田篤 (4年)	23"34(-0.1)	5.31
3	都井紘 (3年)	23"66(-1.2)	5.4
4	春日慶輝 (1年)	24"56(-0.3)	5.6
5	水上 雄太 (2年)	24"64(+0.0)	5.26

#### 男子 400m

1	兵頭直弥 (2年)	49"83	4.6
2	深澤眞楠 (4年)	50"41	5.4
3	梶岡利之 (4年)	51"75	5.31
4	肱島一樹 (1年)	52"00	5.17
5	小福田大輔 (4年)	52"42	5.6

#### 男子 800m

1	渡邊拓也 (2年)	1'56"01	4.5
2	川口祐貴 (3年)	1'58"30	5.5
3	須田遊人 (3年)	2'02"39	5.5
4	坂井 啓一 (2年)	2'03"04	5.5
5	横田祥 (3年)	2'03"19	5.5

#### 男子 1500m

1	坂井啓一 (3年)	4'09"84	5.5
2	割沢高行 (6年)	4'11"22	4.5
3	石川恭平 (3年)	4'14"24	5.5
4	千徳恒範 (4年)	4'15"76	5.5
5	梶井駿介 (4年)	4'21"21	5.5

#### 男子 5000m

1	竹俣直道 (2年)	15'21"19	5.31
2	山田健太郎 (3年)	15'25"12	4.20
3	山崎貴裕 (3年)	15'27"42	5.5
4	東大貴 (1年)	15'43"72	5.31
5	梶井駿介 (4年)	15'46"03	4.20

## 男子 110mH

1	酒谷彰一 (2年)	15"83(+0.3)	5.17
2	尾崎翔 (4年)	16"17(+0.0)	5.31
3	増本健太郎 (2年)	16"49(+1.0)	5.6
4	堀内 敦史 (4年)	17"21(+1.8)	5.3

## 男子 400mH

1	深澤真楠 (4年)	55"54	5.24
2	赤木裕 (2年)	58"62	6.01
3	酒谷彰一 (2年)	59"32	5.31
4	門脇啓太 (4年)	59"75	4.5

## 男子 3000mSC

1	山口健介 (8年)	10'04"74	4.5
2	庄司健太 (2年)	10'15"35	5.3
3	山崎貴裕 (3年)	10'16"86	4.5
4	鳶田洸一 (2年)	10'41"01	4.5
3	井上雄介 (2年)	10'51"40	4.5

## 男子 10000mW

1	菅野 雄大 (5年)	48'25"94	5.18
2	北沢 太郎 (4年)	48'39"79	5.18
-	和田光一郎 (4年)	47'39"28	3.23

## 男子 走幅跳

1	尾崎翔 (4年)	7m25	5.25
2	武安光太郎 (3年)	7m19	5.25
3	廣瀬彬 (3年)	6m68	5.6
4	西田昂広 (2年)	6m66	4.5
5	定金駿介 (2年)	5m37	4.5

## 男子 三段跳

1	武安 光太郎 (4年)	14m01	5.17
2	倉員 智瑛 (5年)	13m82	4.5
3	廣瀬 彬 (2年)	13m80	4.5
-	西田昂広 (2年)	13m26	3.23
-	定金駿介 (2年)	12m77	3.23

## 男子 走高跳

1	小福田大輔 (4年)	1m75	5.31
2	荒井博貴 (3年)	1m50	4.5
-	原湖楠 (2年)	1m45	3.22

## 男子 棒高跳

1	大谷真人 (4年)	4m40	4.20
2	原湖楠 (2年)	3m10	5.31
3	土井富裕 (1年)	2m90	5.31

## 男子 砲丸投

1	北川昂広 (4年)	10m23	4.5
2	原湖楠 (2年)	8m89	4.5
3	寺島孝明 (3年)	8m85	5.31

## 男子 円盤投

1	谷彰一郎 (3年)	27m10	4.5
2	原湖楠 (2年)	23m50	4.5

## 男子 ハンマー投

1	寺島孝明 (3年)	40m59	5.6
1	千葉伸宏 (2年)	30m32	5.6

## 男子 やり投

1	谷 彰一郎 (3年)	59m24	5.6
2	葉梨輝 (4年)	42m76	4.5
3	原湖楠 (2年)	39m92	5.31
4	北川昂広 (4年)	33m36	5.31

## 男子 十種競技

-	原湖楠 (2年)	4127点	3.22-23
---	----------	-------	---------

## 女子 100m

1	清水 蘭 (3年)	13"77(+1.9)	4.5
2	大久保 渥子 (3年)	14"12(+0.2)	5.4
3	高山花子 (2年)	14"36(+1.2)	5.31
4	楠木千尋 (3年)	14"82(+0.8)	4.13
-	日下桃子 (3年)	14"56(+0.0)	3.23

## 女子 400m

1	日下 桃子 (3年)	62"37	5.31
2	楠木千尋 (3年)	67"15	5.31

## 女子 800m

1	日下 桃子 (2年)	2'21"12	4.19
---	------------	---------	------

## 女子 3000m

1	鈴木恵美里 (1年)	12'43"59	5.31
---	------------	----------	------

## 女子 走幅跳

1	高山 花子 (2年)	4m41	5.6
---	------------	------	-----

## 女子 砲丸投

1	楠木 千尋 (2年)	7m57	4.5
---	------------	------	-----

## 女子 ハンマー投

1	楠木 千尋 (2年)	22m68	5.6
---	------------	-------	-----

## 女子 やり投

1	楠木 千尋 (2年)	18m19	5.31
---	------------	-------	------

4 自己記録更新者一覧 2007.4.6~5.31

4/19,20 第193回日体大長距離記録会(健志台)

5000m 庄司健太(2年) 16'17"24  
5000m 松本光一(4年) 18'08"53

4/20 早稲田大学競技会

棒高跳 大谷真人(4年) 4m40

5/3, 4 第61回日体大記録会(健志台)

110mH 堀内敦史(4年) 17"21(+1.8)

5/3 順天堂大学競技会

800m 千徳恒範(4年) 2'06"60

5/3 富山県選手権

3000mSC 庄司健太(2年) 10'15"35

5/4 第2回国土館記録会

200m 中嶋\*\* (3年) 24"83(+0.1)  
400m 深澤眞楠(4年) 50"41

5/5 第194回日体大長距離記録会(健志台)

800m 須田遊人(3年) 2'02"39  
1500m 石川恭平(3年) 4'14"24  
1500m 千徳恒範(4年) 4'15"76  
5000m 井上雄介(2年) 16'52"36

5/6 日大記録会

100m 深澤眞楠(4年) 11"64(風不明)  
400m 小福田大輔(4年) 52"42  
走幅跳 畠山剛治(2年) 4m92(風不明)

5/17,18,24,25 関東インカレ(国立)

400mH 酒谷彰一(2年) 15"83(+0.3)  
400mH 深澤眞楠(4年) 55"54  
1500m 石原宏尚(M1) 3'57"52  
10000mW 菅野雄大(5年) 48'25"94  
走幅跳 武安光太郎(4年) 7m19(+0.7)

5/31 国公立戦(上柚木)

100m 中嶋毅彰(3年) 11"61(-0.5)  
400m 楠木千尋(3年) 67"15  
800m 千徳恒範(4年) 2'05"64  
5000m 鈴木俊輔(1年) 17'22"15  
5000m 丸山哲史(2年) 18'29"28  
5000m 渡邊拓也(2年) 16'19"69  
5000m 庄司健太(2年) 16'08"53  
5000m 石原宏尚(M1) 14'50"76

5 主務より

5.1 応援OB・OG紹介

国立霞ヶ関競技場にて行われました関東インカレ、および上柚木競技場にて行われました国公立戦に際し、応援に駆けつけて下さったOB、OGの皆様のご氏名を報告いたします。(敬称略)

1948卒 山崎英也  
1958卒 浦野穩昌  
1967卒 林義之  
1976卒 田上静之  
1979卒 中谷敬二  
1983卒 八田秀雄  
1991卒 小野満  
1993卒 桜井亮太  
1995卒 伊藤みどり  
1996卒 伊藤亮治  
1999卒 明石顕  
2000卒 藤原大二  
2000卒 渡辺国広  
2001卒 岡野浩行  
2001卒 中台慎二  
2001卒 新妻拓弥  
2003卒 相原佑康  
2003卒 川添雄太  
2003卒 橋本武  
2003卒 藤原啓  
2004卒 石井康雄  
2004卒 田坂和彦  
2005卒 浅野晃平  
2005卒 藤田靖浩  
2006卒 田中佑貴  
2007卒 新井邦生

2007 卒 竹内昌男  
 2008 卒 板倉祥哲  
 2008 卒 石原宏尚  
 2008 卒 今村岳  
 2008 卒 大村泰平  
 2008 卒 木村剛  
 2008 卒 斉藤俊  
 2008 卒 持永新  
 2008 卒 山本祥  
 2008 卒 山本卓典

## 5.2 第4回 T・K マスターズ交流会および 懇親会開催のお知らせ

本年度 OB 戦は、今年で4回目となります「T・K マスターズ交流会」として、7月5日(土)に開催されることが決定いたしました。また、OB 戦後に懇親会も開催されますので、奮ってご参加いただけますようお願い申し上げます。

- 日時
  - 7月5日(土)
  - 13:00 受付開始
  - 14:00 T・K マスターズ交流会 (OB 戦)
  - 16:30 OB 懇親会
- 場所
  - T・K マスターズ交流会 (OB 戦) 駒場第一グラウンド
  - OB 懇親会 駒場生協食堂2階
- 懇親会費
  - 3,000 円

## 5.3 行事予定

- 四大戦
  - 6/14(土) 群馬県営敷島競技場
- OB 戦 (TK マスターズ)、OB 懇親会
  - 7/5(土) 駒場
- 七大戦
  - 8/2(土)、3(日) 宮城野原競技場

- 一橋戦
  - 9/6(土) 駒場
- 京大戦
  - 十月上旬 西京極

## 5.4 連絡先 (慶弔等)

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長:田上静之

TEL : 03-3835-6792

(凸版印刷株式会社経営監査室)

E-mail : seishi.tanoue@toppan.co.jp

学生主務:小福田大輔

〒133-0056 東京都江戸川区南小岩 3-5-13

TEL : 090-8046-2117

FAX : 03-3673-5819

E-mail : swe-ep-red19@hotmail.co.jp

主務 小福田大輔

文責 : 田中裕一郎